

平成 27 年度「特別支援教育に関する実践研究充実事業
(特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究)」報告書

団体名	秋田県教育委員会
研究開始年度	平成 27 年度

I 概要

1 指定校の一覧

設置者	学校種	障害種	学校名
公立	特	知的障害	秋田県立能代養護学校(あきたけんりつしのりようごがっこう)
公立	特	知的障害	秋田県立養護学校天王みどり学園(あきたけんりつようごがっこうてんのうみどりがくえん)
公立	特	知的障害	秋田県立横手養護学校(あきたけんりつよこてようごがっこう)

2 研究テーマ

障害の重度・重複化、多様化に応じ、自校の特色を生かした教育課程の編成と授業改善

3 研究の概要

障害の重度・重複化、多様化が進んでいる県内特別支援学校児童生徒の実態に応じ、自校の特色を生かした教育課程の編成と授業改善を行うため、知的障害特別支援学校 3 校を指定し、実践研究を行った。県立能代養護学校は、日々の授業と地域と関わる学習との関連を探る仕組みづくりを通して、主体的な社会参加につながる教育課程の編成を研究した。県立養護学校天王みどり学園は、児童生徒がやりがいと手応えを感じる授業づくりを通して、キャリア教育の視点で小・中・高を貫く教育課程の編成を研究した。県立横手養護学校は、地域資源を活用した授業づくりを通して、ライフキャリアの視点を大切にした教育課程の編成を研究した。

各指定校においては、実践研究の一層の充実を図り、課題解決に向けた示唆を得るため、県外先進校の視察や他の指定校公開研究会に参加した。また、同一地区内の教務主任や研究主任の協力を得て、教育課程や授業研究の協議を行った。これらにより得たことを教育課程の編成と授業改善に具体的につなげるために、研究推進委員会や教育課程検討委員会等の研究組織を生かして協議を行った。研究成果については、公開研究会の開催や研究紀要の配付を通じて普及した。

県教育委員会においては、自校の特色を生かした教育課程の編成を推進するため、各職種別の会議、各特別支援学校の副校長・教頭、分掌主任が参加する教育課程協議会を通じて、指定校の進捗状況について普及を図った。また、県内知的障害特別支援学校の授業改善を推進するため、各教科等を合わせた指導について、研修会や県内 3 地区での授業研究会を行った。

4 研究の成果

三校とも、自校の特色を生かした教育課程の編成と授業改善に向け、教務主任と研究主任が連携し、校内が一体となった取組が進み始めている。また、同一地区内の教務主任や研究主任の協力による協議会を複数回実施し、各校の課題解決に資する協議が行われた。

県立能代養護学校では、教育課程編成の全体構造図等を作成したことにより、教育課程と授業のつながりや教育課程の計画、実施、評価、改善の流れが明確になり、職員の理解・共有が進んだ。その仕組みを機能させる教育課程コーディネーターが各学部配置され、学部目標から各指導計画、授業へとつなげる協議場面で調整役を担った。

県立養護学校天王みどり学園では、キャリア教育全体計画を授業づくりに活用し、各学部で授業改善を重ねたことで、教育課程の改善の方向性をまとめることができた。また、隣接する学部をまたぐワーキンググループの取組により、先を見据えた指導の意識が高まった。

県立横手養護学校では、ライフキャリアの視点でキャリア教育全体計画を見直すとともに、他の指導の形態との関連を意識した指導計画により、地域資源を活用した授業づくりを進めた。地域資源の活用により、児童生徒の意欲の喚起や学習内容の理解の深化など個々のキャリア発達につなげることができた。

5 課題と今後の方策

三校とも、研究の基盤づくりはできたが、教育課程の編成と授業改善の具体的な成果を発信・普及するまでには至っていない。教育課程と授業が連動して進むよう教務主任が一層役割を発揮したり、教育課程の評価・改善につながる授業の協議を進めたりする必要がある。

県立能代養護学校では、教育課程編成の仕組みはできたが、学部目標から各指導計画、授業へとつながることを踏まえた取組が定着するまでには至っていない。日々の授業と地域と関わる学習との関連の整理と併せて進め、主体的な社会参加につながる教育課程の編成と実実施について具体的にまとめ、発信する必要がある。

県立養護学校天王みどり学園では、研究組織を十分に生かし切れなかった。今後は、ワーキンググループによる取組を研究の中心に据えるとともに、ワーキンググループの協議内容を他の研究組織で整理し、日々の授業づくりに還元する仕組みを整え、キャリア教育の視点で小・中・高を貫く教育課程の編成を具体的にまとめ、発信する必要がある。

県立横手養護学校では、教育課程と授業づくりの結び付きが弱かったことから、教育課程の基礎理解も含めて、教育課程と授業が連動した研究を進める必要がある。また、ライフキャリアの視点で改めて教育課程を評価・改善し、教育課程と授業が連動した具体的取組をまとめ、発信する必要がある。